

C H E M I S T R Y

化学

AUGUST
2023
Vol.78

8

解説 ● Research article

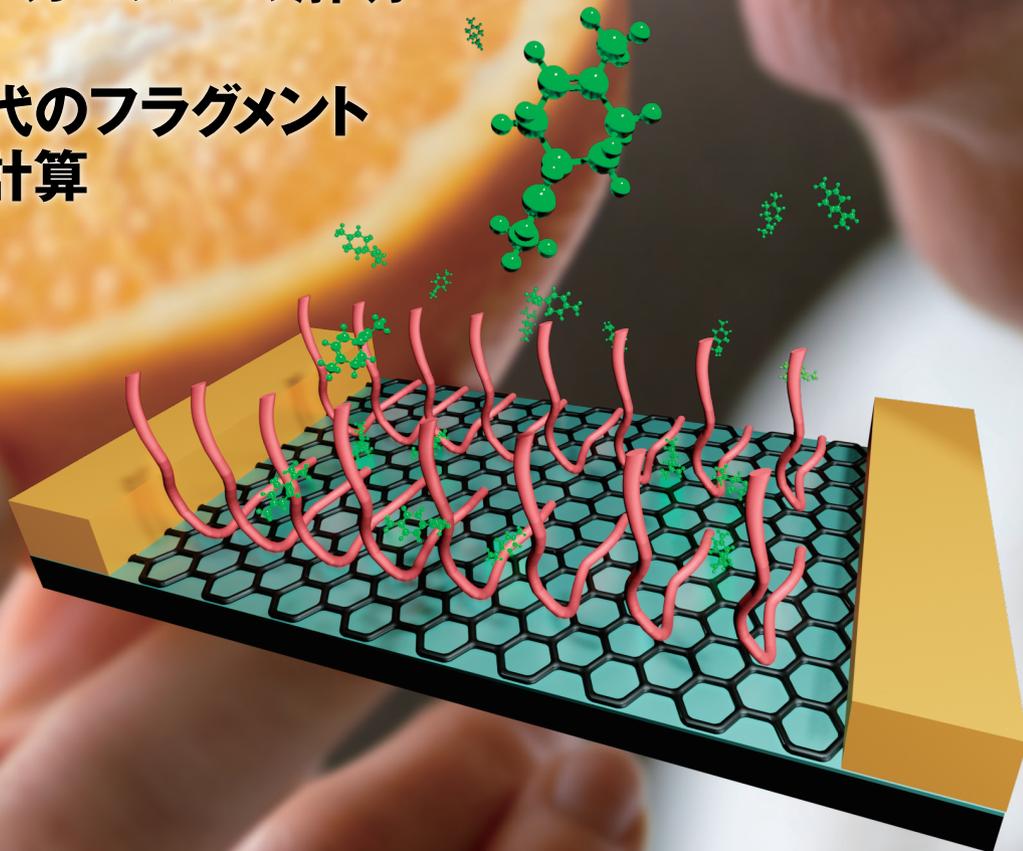
グラフェンでつくる 匂いセンサ

解説 ● Research article

甘味受容体の動的な活性化・ 不活性化メカニズムの解明

紹介 ● Topics

「富岳」時代のフラグメント 分子軌道計算



サイエンティストの趣味の扉 ③

武道 × 合唱 × 科学

武道と男声合唱のはざままで

合原一幸 (東京大学国際高等研究所ニューロインテリジェンス国際研究機構)

大学1年生は、自己管理できる時間が増えて、基礎的勉強にとっても趣味にとってもきわめて重要な時期だと思います。筆者の場合、ある意味このタイミングでつまづいたところがあります。入りたいクラブが多すぎて、悩みに悩んだ末に東大運動会合気道部と東大音楽部コーラアカデミー(東大唯一の男声合唱団)の両方に入るという愚挙にでてしまいました。

夜の稽古や練習は曜日がずれていてなんとかなったのですが、問題は昼休みでした。合気道部は毎日第3体育館で稽古があり、コーラアカデミーは毎日時計台下で練習があります。やむをえず、1日交替で両方にでていたのですが、1年間やってみて、これではどちらも中途半端になるなと思いました。そこで再び悩みに悩んで、コーラアカデミーを1年間で退部し、合気道部だけに絞りました。

武道との出会いは、小学校のときに始めた剣道です。子どものころからチャンバラが大好きだったので、最初の足さばきの稽古すらとても楽しかったのを覚えています。中学、高校と剣道を続けましたが、高校は鹿児島に行ったので、まるで示現流じげんりゅうのような強烈な面打ちをする猛者の先輩がいて感動しました。鹿児島は剣道がさかんでレベルが高く、高校1年生春の大会で最初に対戦した相手は、その年の全国個人戦2位になった3年生でした。あっという間に負けましたが、筆者をなか

なか頭脳的なプレーだったと慰めてくれました。大学で、剣道部ではなく合気道部に入ったのは、東大合気道部は鹿島神流かしましんりゅうを重視していて、実に魅力的だったからです。とくに個人的には、杖術が一番好きでした。杖は長さであ



杖術稽古中の筆者(大学時代)

るので遠くから攻撃できるとともに、懐に入られた場合は手元の逆の端で対処可能という二面性をもちます。また、体術も剣道のつば競り合いに役立つのではないかとひそかに思っていて、学部卒業後に大学院に進んでからは工学部の丁友会剣道部に入って剣道にもどりました。まあ、元来武道が好きなので運動能力が高いわけではないので、あまり上達はしませんでした…。

片や、男声合唱との出会いは武道よりもずっと前です。父が当時北九州市にあった男声合唱のノーヴェン・ラウ

ルス合唱団の指揮者をしており、なんとわが家が練習場だったので、物心つく前から男声合唱の重厚で美しい響きに包まれて過ごすという幸運に恵まれました。高校は男子校でグリークラブがあったので、剣道部とともにこちらにも入りました(当時からすでに二股だったのですね)。高校の男声合唱団はあまりないので、毎年九州大会に進むことができ、みんなで遠征して楽しい思い出となりました。

武道と合唱は、個人競技と集団演奏というある意味対極的なところがあります。直接関係するわけではありませんが、筆者が専門の複雑系の数理解析も、個と全体の両方、そしてそのあいだの関係性を考える必要があるのです。どこかでつながっているような気がします。

この齢になると、木刀の素振りをしたり友人と時どきコーラスをしたりする程度になってしまいましたが、やはり武道と男声合唱が人生の通奏低音になっているように思います。そして、何よりもうれしいのは、合気道部、コーラアカデミー、丁友会剣道部の三つのクラブの友人、さらには先輩、後輩にも恵まれて、今でも多くの出会いがあることです。趣味に時間を割き過ぎて、肝心の学問が若いときにややおろそかになったきらいはありますが、後悔の念は全然なく、もう一度大学生にもどれたら、ぜひ1日交替をもっと長く続けてみたいと思っています。

あいはら・かずゆき ● 東京大学特別教授/名誉教授、同大学国際高等研究所ニューロインテリジェンス国際研究機構副機構長、1982年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了、工学博士。〈研究テーマ〉複雑システムの数理的研究